Q なぜ現在地での建設ができなかったか

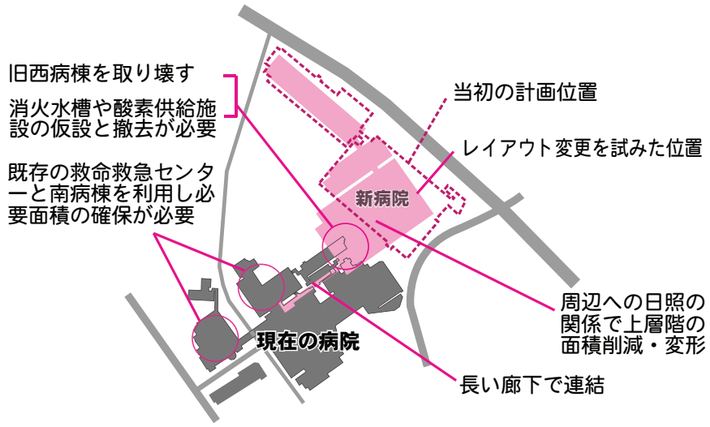
用地の確保が困難なため、限られた用地に合わせて設計を変更した結果、建設する建物が現在の病棟に大幅に近づいたうえ、既存の施設の一部を先行して撤去するなどの工事が増えました。

そのことにより、振動や騒音によって顕微鏡等を使用する高度な医療行為や入院患者に与える影響が、完全に解消することはできませんでした。

また、先行して撤去する施設や仮設のための工事、基礎工事などの振動が発生する工程では、医療事故を防ぐため手術の時は工事を中断するなど、工期の遅れや建設費の増大などの懸念がありました。

●レイアウトの変更により使いにくい施設

- ▶動線が長く使いづらい
- ▶新病院に一体的に集約した病院にならない
- ▶駐車場が分散してしまう



●振動や騒音、工事費の増大や工期の遅れが懸念

- ▶旧西病棟を先行して取り壊し
- ▶消火水槽や酸素供給施設仮設・撤去
- ▶仮設施設から現在の病院へ配管工事
- ▶新病院完成後も解体工事が続く
- ▶複雑な工事の工程
- ▶工事中は駐車場がめまぐるしく変更

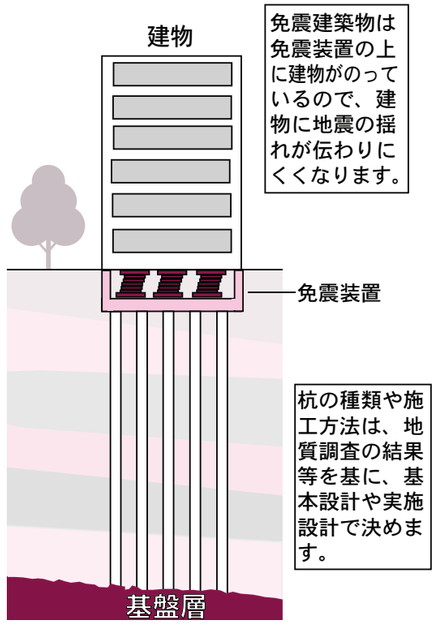
Q 新たな建設予定地は大丈夫？

古川穂波地区市有地は造成を行った時、ちょうど漬物石で重しをするように盛土をして重圧をかけて地盤を安定（載荷盛土工法）させているので、建設には問題のない土地です。

古川地域の地質は、おおむね地下約三十メートルに一般的建物の支持基盤となる砂礫（されき）層があり、約五十メートルに硬い基盤層があるとされており、予定地でも深さに多少の違いはあっても基盤層まで杭を打つことを想定した事業費を見込んでいます。

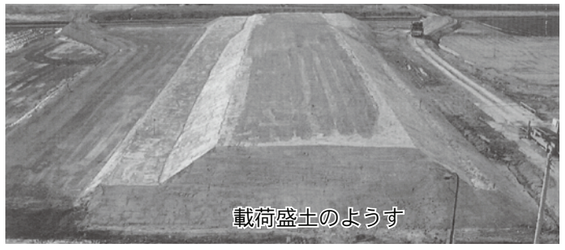
新しい病院は、免震構造で建築しますが、実際の杭の長さや工法は、地質調査の結果を基に適切な方法を選択することになります。

水害についても、周辺河川の改修や遊水地などの災害対策がとられており、今年十月の台風十八号による降水（古川地域の時間あたりの降水量が観測史上二番目）でも冠水はみられませんでした。



イメージ図

杭の種類や施工方法は、地質調査の結果等を基に、基本設計や実施設計で決めます。



Q 工事の安全対策は？ 新しい病院へのアクセスは？

新病院の建設に伴い、工事車両による交通量の増加が予想されます。さらに、小中学校も近いために、通勤・通学時間帯の工事車両の規制や、学校の登下校時に誘導員を配置するなど安全確保に努めます。

また、新病院建設を進める上で、必要に応じて地区説明会を開催するなどして情報提供を行います。

新しい病院までのアクセスは、中心市街地から少し離れることになるので、交通弱者の足の確保に向けて公共交通等の路線の在り方や輸送方法について検討します。

国道四号にも近く、平成二十三年度中には都市計画道路李埠飯川線が開通し、加美町方向から新病院の前を通り合同庁舎付近までの道路が整備されることにより、スムーズに病院を利用することが出来ます。

Q 移転後の跡地利用は？
（千手寺周辺地区の振興）

大崎市民病院本院移転後の施設および跡地の活用と同地域の地域振興、土地利用策を検討するため、十一月一日に市民協働推進部政策課内に千手寺周辺地区振興対策室を設置し、同時に高橋副市長を本部長とする対策本部を設置しました。

今後、この地域のまちづくりについて話し合い、地域振興計画の策定を目指します。

市長コラム 天（てん）・地（ち）・人（じん）

次世代へつなぐ安全安心な病院を！

行政の大事な使命は、住民の命と健康を守ること。そのために安全安心な医療の提供が必要であり、良い医療を提供するためには、頼れる医師や看護師などの医療スタッフが不可欠であります。

しかし、医師不足に起因する地域医療の崩壊が進行し、産婦人科や小児科にとどまらず、その他の診療科でも休止や廃止を余儀なくされる医療機関が相次いでおります。

命と健康への危機感が高まる中、大崎市民病院本院建設は、古くなった病院をただ建て替えるだけではなく、時代の要請に応えるために高度な先進医療が提供できる県北の基幹病院を目指すことと、医師不足の解消が図られるマグネットホスピタルを目指すなどの高い使命感で計画されました。

今回、市民病院を利用する人のために安全安心な良い病院をつくりたいとする医療スタッフからの要望書、議会や市民からの指摘もあり、改めて市民の目線で、内容を精査、検証した結果、用地買収が不完全な現在地建て替えに、致命的な課題や懸念が明らかになりました。これまでの経緯、経過はありましたが、市民の命と健康を守るために、断腸の思いで建設場所の変更を決断いたしました。

議会では大方の議員から賛同をいただき、医師派遣の主体を担っている東北大学病院や地域医療計画を担う宮城県からも全面的な支援を表明いただきました。

今後は、市民皆様の正しいご理解とご協力をいただきながら、頼れる病院づくりに渾身の努力を傾注してまいります。

半世紀に一度の大事業、市民病院を次世代へつなげる大崎の宝として、大きく育てていきましょう。

大崎市長　伊藤康志